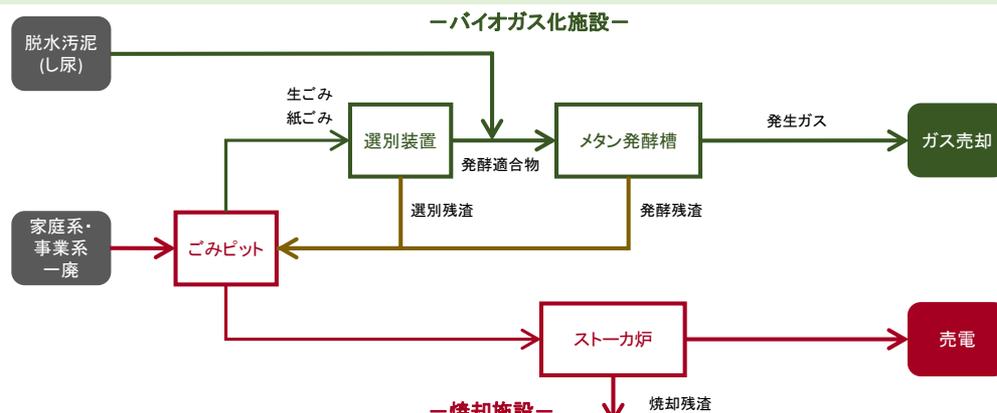


(2) 鹿児島市

基本事項：

ごみ発生量	22.3万t/年
人口	60万人
都市タイプ	地方中心都市
ごみ収集区分	可燃ごみ
既存の方式	焼却処理



計画中の全体処理フロー（乾式メタンコンバインドシステム）

経緯：

- ・バイオマス資源の有効活用を図るために、
平成23年度：バイオガス化施設整備の導入可能性調査を実施（事業化検討）
- ・平成24年度：【当初計画】バイオガス施設整備基本計画（バイオガス施設⇒単独施設として新設）
- ・平成26年度：【変更計画】「新南部清掃工場（ごみ焼却施設・バイオガス施設）整備基本計画」（ごみ焼却施設及びバイオガス施設を一体の施設として整備）
- ・平成27年度：各種調査（地盤調査・測量調査、生活環境影響調査・事業手法選定調査、基本設計）

システム概要：

- ・焼却施設（平成6年稼働）の更新に合わせ、バイオガス施設を一体整備（コンバインドシステム）
- ・対象バイオマスは生ごみ・紙ごみ（事業系ごみ・家庭系ごみ）+脱水汚泥（し尿）
- ・処理規模は、ごみ焼却施設 約220t/日、バイオガス施設 約60t/日
- ・ごみ収集区分は現在のまま、可燃ごみ収集・施設は機械選別、乾式メタン発酵
- ・残渣は全量を焼却

エネルギー利用計画：

・ バイオガス精製（都市ガス事業者売却）とバイオガス発電を比較

⇒ バイオガス精製（都市ガス事業者売却）を採用

〔理由〕

①ガスの変換効率や温室効果ガス排出量削減効果、市民への啓発効果が高い

②エネルギーの地産地消に大きく貢献する

など

・ 都市ガス事業者が近接していることから、都市ガス原料として、売却予定

・ ごみ焼却施設では発電を実施し、FITを用いて売電

現状及び今後の予定：

・ 施設整備に向けた事業進捗は順調

・ 平成28～29年度にかけて、要求水準書等作成、事業者選定及び工事発注を実施

・ 平成29年度から平成32年度に整備工事を実施

・ 施設稼働時期は平成33年度を予定

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
施設基本計画策定	●	●						
施設基本設計		●	●					
事業手法選定調査		●	●					
生活環境影響調査		●	●					
用地測量		●	●					
地盤調査		●	●					
事業者選定・工事発注			●	●				
整備工事				●	●	●	●	●

稼働 →